

株式会社三協製作所における QC検定の導入・活用



株式会社三協製作所
品質保証部

1. 組織概要

商号 株式会社三協製作所 (SANKYO MFG CO., LTD)

資本金 10,000 万円

創業 昭和 35 年 3 月 1 日

代表者 代表取締役 増田 孝史

営業品目
アルミニウム合金精密冷間鍛造品
アルミニウム温間・熱間鍛造品
アルミニウム・インパクトケース
アルミニウム各種プレス加工品
アルミニウム機械加工品

従業員数 141 名 (2022 年 2 月末)

事業所
本社
名古屋支店
山形工場
タイ工場

URL <https://www.sankyo-cf.co.jp/>

製品紹介
自動車・二輪部品や産業機器
部品・エネルギー関連・医療
用等々、多岐に渡って小型か
ら大型までアルミニウム製品
を様々な業界に提供している



2. QC検定導入の経緯

QC検定制度が誕生してから時をほぼ同じくして、当社では、自動車Tier1&2メーカーとの取引が増加傾向にあった。当社内における品質改善活動の一層の活性化や有効化のみならず、それら取引先との共通言語となる「品質管理」の知識・考え方を全員が当たり前身につけることが肝要との考えから、QC検定受検を手段として活用することにした経緯がある。QC検定受検のための「教育」の効果をQC検定受検によって測ることも兼ねられるという期待もあった。

取引増を契機に、以上のQC検定導入による効果を鑑み、QC検定受検を、山形工場に限らず、全社をあげて取り組むことになった。現在、全事業所において、3級合格を目標に、更には2級や1級受検にも挑戦し、合格者を輩出している(4.参照)。

3. QC検定導入・活用の具体例

当社では、QC検定の受検を仕組み化している。いくつかの取組み例を次に示す。

① 申込負担の軽減

回数の制限はあるが、受検料を会社負担とすることで申込への敷居を低くしている。また、④で後述するように、当社では、3月受検を基本としている。申込開始時期にあわせて、事務局が社内の受検希望者を取りまとめ、一括申込を行うことで個人負担の軽減につなげている。

② 受検前の教育・指導

毎回、検定実施日の直前には、2級の合格者が講師になり、それぞれの級の受検者研修を行っている(1時間×8~10テーマ/級)。合格者による的を射た要点解説は好評を博している。なお、1級は、希望者が1級合格者に対して個別相談する方式である。

合格者にとっても、更なる成長機会となる。すなわち、講師としての目線で、当該級に相当する知識・要点を復習することで、より深い学びや指導力を培う機会になっている。加えて、講師という指導役を担うことによって、社としての受検の意義・期待を一層強く感じられることも意図している。

社内研修では、QCの「知識」を現場・実践で生かすやすくするよう心掛けている。例えば、「QCのこの手法は現場でいま行っているこの取組みのことだよね」、「現場にある表は、QCでいうこの考え方に基づいてデータがとられているんだよ」「いま現場で収集しているデータを分析するためには、QCのどの手法を用いるとよいと思う?」といったように、「知識」を「実践」に生かすという、意識付けを与えている。自社活動とのつながりをも意識した研修を行うことで、「現場で生きる知識」の習得ができています。

③ 合格者の掲示・一時金支給

全合格証を社内に掲示し、かつ、一時金を支給している。なお、自己採点の結果、

難しかった分野については、参考として、②の研修で強化する等に生かすことにしている。

④ 近隣学校・企業との共同受検

当社としては、受検管理を確実に行きやすい団体受検を継続したいが、団体申込は履行最低人数の条件があるため、年々、合格者が増加することにより、受検者が減少し、団体申込が極めて困難になるというジレンマが生まれる。

そこで、近隣の企業（約10社）や学校（長井工業高校）と共同で団体申込を行っている。年2回（3月、9月）のQC検定のうち、学校の授業時期との兼ね合いから、「3月」に焦点を絞り、当社の一斉受検もそれに合わせて実施している。

⑤ 地元の工業高校で品質管理講座を展開

長井工業高校のカリキュラムに品質管理の授業があり、当社品質保証部が1コマだが講師を受けもっている。授業に関して、長井工業高校の学生の評判も上々で、学生では難易度の高い2級合格者を輩出するなど、成果につながっている。

（合格者の声 https://webdesk.jsa.or.jp/common/W10K0500/index/qc/qc_uservice2/）

共同での受検や、企業とのつながりを感じられる授業など、地域貢献の側面をもちつつ、学生にとっては未知の「企業」を知ることができ、一緒に受検した企業へのリクルートにつながった例もある。

山形新聞 (第三種郵便物認可)

企業と連携 QC 講座

品質管理

長井工業高校（宮野悦夫校長）は地元の製造業者を講師に招いた品質管理（QC）講座を開催し、来年3月のQC検定（日本規格協会など主催）受検を目指す生徒らが熱心に受講した。産学連携の教育として定着しており、「ものづくりのまち長井」を支える人材の輩出にも貢献している。

長井工高 講師は地元製造業者

聴き、必須の統計処理や、ヒストグラム（データのばらつきを調べるグラフ）を用いた問題点の導き方についても教わった。生徒から「分かりやすかった」「受検への意欲が湧いてきた」といった声がかげられた。

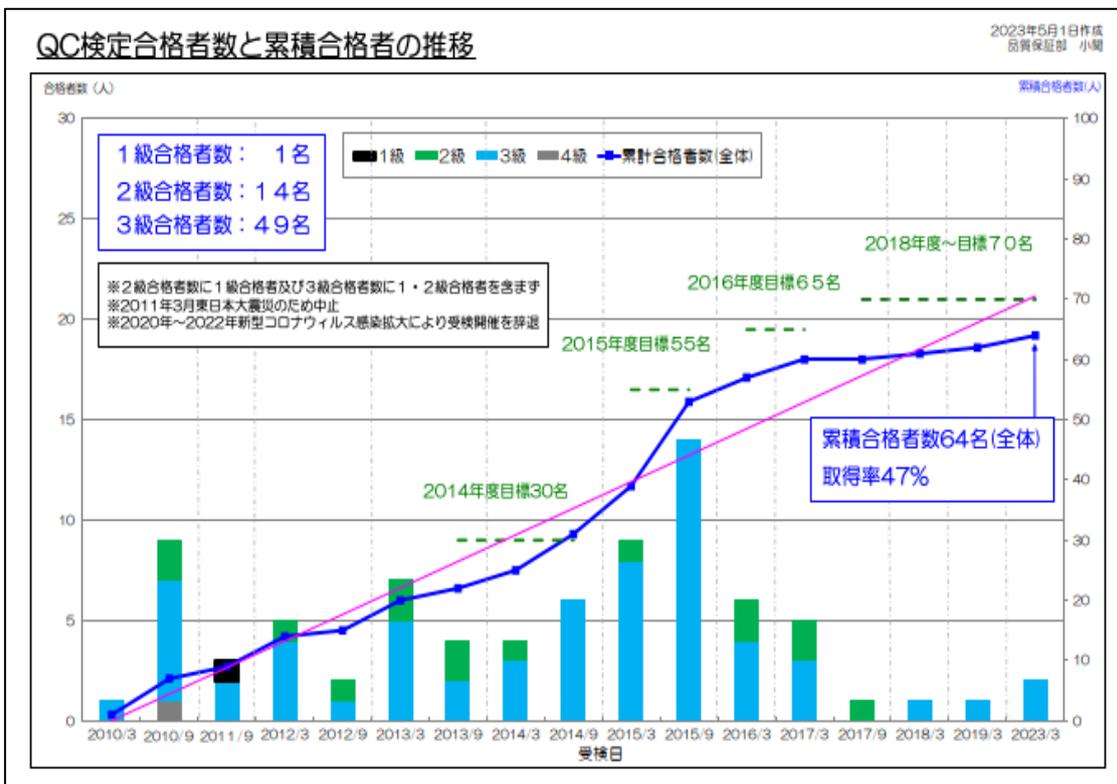
検定は年2回あり、近年同校生徒は3月に毎回60人以上が受検。3、4級で多くの資格取得者を出している。機械システム科長の高橋啓教諭（36）は「課外を受ければ、自主的に勉強に取り組む生徒も目立つ。今後とも協力を受け続けたい」と話している。

三協製作所山形工場の社員の説明を受け、品質管理について学ぶ2年生 長井工業高

講座では資格取得の優位性、試験問題傾向などをしている。

検定へ意欲、人材育成にも

4. QC検定受検者の状況・実績



国内の全事業所、全部門を対象に、1級～3級の受検に挑戦している。結果、全部門から2級以上の合格者が誕生していることに加え、全従業員の約半数(47%)が3級以上を合格しており、全社的に品質管理体制の底上げを図っている。

QC検定合格(やそれに至る勉強)による品質向上・問題解決への効果は、なかなか数字に表わしにくいですが、全社員が改善活動を行い、年間1万件を超える改善提案がなされている。また、データの取り方や見方、問題事象の確認方法などが主観でなく、客観的になってきて、それが文化として定着してきていることを実感している。

合格者の声の一例を次に示す。

職種	取得級	受検の感想
営業部 (男性)	2級	2級を取得したことにより、顧客品質部門との打合せやデータの確認・やり取りもスムーズに行えるようになった。顧客との品質的な面談で 伝えること・受け取れる内容の理解度も上がり大変役に立っている。
製造部 (男性一般職)	3級	品質管理において基本的な知識を理解することで、改善活動にも活かしている。又、データの取り方、まとめ方が目的に合わせて出来る様になった。
製造部 (男性管理職)	3級	QC検定を取得したことにより、日頃、業務内容の会話が理解できるようになった。又、問題解決や課題達成の際にQCの手法を実践に活用している。QC検定は仕事に役立つ良い機会となっており、課員に受験を勧めていく。
製造部 (男性管理職)	2級	学んだ手法を用いて問題解決ができるようになり「品質管理手法を学ぶ楽しさ・やりがい」を感じるようになった。まだまだ理解が足りず、現場で生かしていない部分が多くありますが会社全体の品質管理のレベルアップに生かしていきたいと考えている。
技術部 (男性)	3級	QC検定で学んだ内容・知識は、顧客や協力工場と打合せの際には必須と感じる（特に寸法公差の取決め等）。要求される品質が日々上がっていると感じるので、基礎知識向上のためにも、物作りに携わる方は受験された方が良いと思う。
生産管理部 (男性)	2級	QCを学ぶことで、統計的なデータのとり方やまとめ方が非常に役に立っている。漠然としていた問題に対する解法を数値で考察できたり、他の人に見えるデータとして提示することで説得力が持てる。
品質保証部 (女性)	3級	今までよく耳にしていた手法やデータの纏め方が、受験を通じて自分で勉強をする事によって深く理解する事が出来た。今後は仕事に活かして品質向上に繋げていく。
総務部 (女性)	2級	品証部に所属時に取得したが、総務では？と考えつつ「特性要因図」などはトラブルの予防、問題の分析に使える手法と思っている。 感覚ではなくデータに基づく考え方として仕事に活かしていく。

5. QC検定への期待

QC検定合格による目に見える（数字で表せる）効果や、企業の改善活動等への有効な生かし方をもとに、QC検定の存在意義をより高め、従業員も多様化している昨今、グローバルな検定へとステータスが向上されることを期待している。

QC知識を確実に企業内の改善活動等に生かすことが肝要なので、QC検定の学習、受験によって、実践での活用をイメージできるような試験内容などを期待する。

6. 学生への期待

「品質管理」は、企業の効果的な改善・問題解決活動に欠かせないものである。実際、企業の現場で発生する問題とその解決に役立つ考え方や手法は、QC検定の対象範囲となっている。

QC検定は、その品質管理の知識習得を客観的に測り、合格によって、その対外的アピールに活用できるものなので、例えば、自分が企業にとって役立つ人間であることを伝えるツールにもなる。また、QC検定を通じて、社会に出るための心構えも得られるという副産物もある。

これから就職を目指す学生の皆さんにとって、QC検定受験を通じて、就職前にこれらを習得しておくこと、合格して知識をもっていることが証明されることは有益と考える。

学生の皆さんにおかれては、QC検定の受験挑戦に期待する。また、共同している長井市の学生の皆さんと今後も合格の喜びを感じていけることを期待している。

以上